

第3期拡張事業

総合的な水道整備へ

昭和39年～昭和45年
(西暦1964年～1970年)

簡易水道事業の統合

第3期拡張事業は、昭和38年12月に厚生省の認可を受け、39年6月から工事に着手しました。西部地区では味美土地区画整理事業地内への給水と、これに関連する西部簡易水道の統合を行い、東部地区では、高蔵寺簡易水道と大泉寺簡易水道の市水道への統合を行いました。また、廻間町から白山町、神領町にかけての区域への給水整備を行う計画も立てました。

しかし、第3期拡張事業区域内では、西部地区の味美第2土地区画整理事業、東部地区の高蔵寺西部土地区画整理事業等が始まり、急速な住宅建設が進みつつあったため、昭和40年、第3期拡張事業計画を変更することになりました。

知多配水場、廻間送水場・配水場整備

第3期拡張事業は西部と東部に大別されます。西部地区に新たに設けた水源は、味美知

多町の第1水源、味美花長町の第2水源、稲口町の第3水源の合計3か所の深井戸で、既設の西部簡易水道水源を補助水源としました。第1水源地内には浄水施設、配水池・配水ポンプ施設を新設し、加圧直送によって配水を行う計画でした。市西部地区への給水の要となるこの知多配水場は昭和41年8月に完成し、味美花長町などに給水を始めました。

東部地区では、廻間町の第1水源、庄名町の第2・4水源、坂下町の第3水源の合計4か所の深井戸を水源としました。

第1水源地に浄水施設と送水施設を設け、他の3か所の水源から導水した原水を併せて浄水処理した後、別に設けた配水池から自然流下により配水する計画でした。この廻間送水場と廻間配水場は、昭和42年6月、43年3月にそれぞれ完成しました。

その後、西部、東部の両地域で配水管の整備を進め、昭和45年3月に第3期拡張事業



廻間町・廻間送水場

が完了しました。

急速な人口増加

市の人口増加は、昭和30年代後半から急速に始まり、特に43年から50年にかけては、毎年約1万人にのぼりました。一方、土地区

画整理事業は、昭和41年からの高蔵寺二丁目タウン開発を含めて、40年から50年にかけての10年間に22か所で着手されました。人口増加と土地区画整理事業施行面積の推移は相互関係にあると言つてもよく、互いに影響しあつてまちづくりが進んでいました。



味美町・知多配水場 配水池施工状況

第3期拡張事業計画

計画給水区域	堀之内町、神領町、下市場町、金ヶ口町、大留町、出川町、松本町、東神明町、庄名町、白山町、気噴町、玉野町、木附町、外之原町、細野町、西屋町、黒鉾町、宮町、春日井上ノ町、春日井町、下屋敷町、宗法町、味美美濃町、味美上ノ町、味美西本町、味美白山町、高蔵寺町、高座町、大泉寺町、味美花長町、味美知多町、廻間町の全部、味美中新町の一部	
計画目標年度	昭和54年度	
給水人口	12万2,000人(昭和54年度)	
1日最大給水量	26,600m ³	
水源の種別	深井戸からの地下水	
取水地点	味美知多町、味美花長町、稲口町、廻間町、庄名町、坂下町	
浄水方法	重力式急速ろ過方式	
工事期間	計画期間	昭和39年度～44年度
	実施期間	昭和39年6月1日～45年3月31日
事業費	予定総額	5億3,900万円
	実施総額	5億5,662万円